

－3. 都市計画報告会・ワークショップ報告－

テーマ：産業・生活・文化の総合的アプローチによるクリエイティブ・タウン構想

日時：2011年11月20日（日） 15:00～17:00

会場：東京大学工学部14号館1階126教室

主催：モノづくり観光研究会（日本都市計画学会 社会連携交流組織）

主旨説明・全体進行：川原晋（首都大学東京）

研究報告：岡村祐（首都大学東京）、大熊瑞樹（大成建設）、事例報告：泉英明（ハートビートプラン）

パネルディスカッション：野原卓（横浜国立大学）、山田伸顯（大田区産業振興協会）、田中裕人（大田観光協会、ソシオミュゼ・テサイン株式会社）、泉英明、岡村祐、大熊瑞樹、川原晋

主旨）モノづくり観光研究会は3大学と大田観光協会から構成され、東京都大田区の工場集積地域を対象として、モノづくりとまちづくりを総合的に考えるアプローチで、3年間、調査研究とイベントを実施してきた。工場まちの資源を多面的に捉え、産業系の創造都市を目指して、「クリエイティブ・タウン大田」構想を地元産業界や行政に提案している。本WSでは、それら関係団体や東大阪で類似の取り組みをしている方を迎え、取り組みの意義や可能性を議論した。

●研究会活動報告1（岡村氏）：「モノづくり観光研究会のアプローチと活動経緯」

技術・企業情報だけでなく、経営者の魅力やものづくりへの姿勢、工場建築やまちの歴史といった多面的な資源を調査した。そこで生まれた問題意識の下、新たなモノづくりの芽を生み出す「創造産業プラットフォーム」、モノづくりの層を広げる「モノづくり観光」、モノづくりをしやすい環境をつくる「モノづくり生活」の3つのアプローチでプロジェクトを進めてきた。例えば、住工一体の建築を「工場町家」と名付け、地域資産としてその活用を提案した。また、「ものづくりたまご」「大田オープンファクトリー」といった期間限定でモノづくりのプロセスや環境、製品を体験する場をつくり、ものづくりまちの環境形成のためのエリアプロモーションにつなげるイベントを始めている。

●研究会活動報告2（大熊氏）：「大田区の産業ネットワークと地域ネットワークの重層性について」

親工場からの受注を近隣工場間で連携して対応する「水平的受発注ネットワーク」が、仕事の平準化、短期納品、技術補完といった目的で成立していること、また、こうした受発注の産業活動だけでなく、住民としての地域活動や、その中間的活動といえる工業関係者でのゴルフの会といった活動の重層性が、新たな仕事へ発展する場合も多かったことが報告された。経営者の世代が変わり、その重層性は薄らいでおり、従って、今の時代に合った新たな重層的ネットワーク形成の必要性が指摘された。

●類似事例報告（泉氏）：「東大阪市高井田地域の工場の操業環境を維持する住工共存まちづくり」

工場跡地に専用住宅が建ち、周辺工場が住民とのトラブルのリスクから設備投資を控える等、操業環境の脆弱さが露呈した。この問題を都市計画として解決すべく行政と共に地域に入り、現在、法定地区計画の地元合意が終わり条例化段階である。並行して、次世代の担い手を作ろうと、高校生が企業経営者に「聞き書き」した内容を発表する「ものづくり体験塾」を継続している。これら成果の要因は、地域に住みながら操業し、PTA等の地域活動と生産活動の両方の立場が分かる、地域から信頼された数名がコアメンバーとなったことである。泉氏のもう一つの活動として、ステレオタイプでない大阪の魅力を伝える「大阪まち遊学」というまちあるきガイド企画がある。高井田地域でも実施したが、工場町での観光は日頃の活動の延長で、キーマンの要請だからこそ可能である、と報告があった。

●討論

3つの発表を受けて、厳しい産業環境の中での、ものづくりとまちづくりの総合的取り組みの意義が議論された。山田氏からは、現在、大田で生き残っている企業の何割かは、先端的開発を進める顧客の課題解決を担うソリューションサービス型や、自社提案ができるクリエイティブな企業であり、そこでは短期集中の試行錯誤や加工作業が必要であること、そうした場として「工場町家」の作業環境は、ポジティブに価値を捉えるべきであるとの指摘があった。また田中氏からは、その一方で、一般的・手作業的工場は、B to Cへのシフトや、地元商店街と協働の取り組みなど、工芸化や地域化していく必要があることが指摘された。また、工場の操業環境を維持するためにも、ものづくりのまちの環境を残すことが大切で、周辺の創造的な人材、産業を誘致し、工場の地権者が将来的にもマンションでない創造的な場としての資産活用ができる方法を提案することも本構想のテーマであるべきだと指摘された。

最後に野原氏から、①モノの価値を生み出す産業まちの形成に都市計画が役立つ必要性、②工業を基盤とした創造都市の構想は希有であり、多くの知恵と協力を得て大田で挑戦したいこと、③構想が総合的な分、都市計画分野だけでなく周辺分野も協力し合うまちづくりの技術を考えたい、と総括された。